

ビジュアル・シンキング・ストラテジー（VTS）を 日本語教育に応用した実践報告

—— クリティカル・シンキングとビジュアルリテラシーの向上を目指して ——

小林尚美

1. はじめに

本稿は、別科日本語研修課程中級クラスで、2012年に実施した Visual Thinking Strategies（以下、VTS）を応用した日本語会話クラス¹⁾の実践報告である。VTSとは、アメリカの認知心理学者アビゲイル・ハウゼン（Abigail Housen）と、ニューヨーク近代美術館の教育部長であったフィリップ・ヤノウイン（Phillip Yanawine）が、1980年代から研究と開発を始めた「対話型鑑賞教育」による新しい美術鑑賞教育方法で、橋本他（2012）が日本語教育への応用を提唱している。作品を見て根拠に基づいた自分の意見を持ち、それを言語化して自分の考えを他者に伝え、ファシリテーターのパラフレーズや他者の意見を聞くことにより、新たな自分の考えを構築していく活動である。この一連の流れの中では、新しい文型・表現・語彙といった言語能力だけでなく、観察力、論理的思考力、コミュニケーション能力、批判的思考力も養うことができるとされている。

橋本他（2012）「Visual Thinking Strategies（VTS）の日本語教育への応用を考える」『日本語教育方法研究会誌』より、VTSの進め方を抜粋する。

- ①鑑賞者（学習者）に作品をしっかりと見てもらうため、数分程度の静かな時間を取る。
- ②ファシリテーター（教師）は、まず最初に「この絵の中で、いったい何が起きているでしょうか（What's going on this picture?）」と問いかける。
- ③ファシリテーターは常に中立な存在であり、鑑賞者の発言に評価を加えたり自分の考えを述べたりしない。
- ④ファシリテーターは鑑賞者の発言の直後にターンを取り、「言い換え」（パラフレーズ）をする。ただし、発言の内容は変更しない。パラフレーズする場合、すべてを言い換えるのではなく、発言内容を要約し、正確な文法や語彙を使用する。
- ⑤ファシリテーターは「絵のどこから、そう思ったのですか（What do you see that makes you say that?）」と聞き、鑑賞者にその発言の根拠を明らかにしてもらう。
- ⑥ファシリテーターは絵の中の話題となった場所を指し示し、正確な位置を確認する。
- ⑦ファシリテーターは以前に出た意見を関連づけ、それぞれの鑑賞者の意見の展開や変化、積

み重ねを示す。

- ⑧ファシリテーターは発言を促すため、「そのほかに、もっと発見はありませんか (What more can you find?)」と問う。
- ⑨最後に鑑賞者に感謝の言葉を言う。セッションのまとめや作品の情報提供は行わない。

このように VTS は、絵を「見る (読む)」, 「考える」, 人に「話す」, 人の意見を「聞く」, また「考える」という流れで行う活動である。

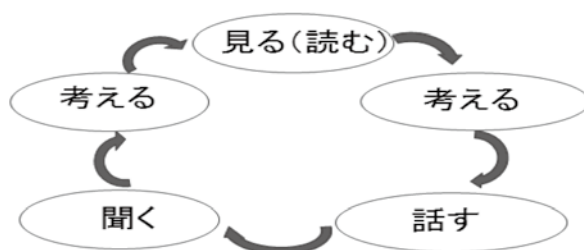


図1 VTSの流れ

従来の日本語教育との違いは、ファシリテーターとしての教師がその絵に関する情報を提供したり、自分の意見を述べたり、学習者の語彙や文法の間違いを訂正したりしないことであろう。教師がパラフレーズする時に、正しい日本語を聞き、自分の間違いに自然に気づかせる。つまり、絵を読み解くことに正解はなく、言語能力も関係ないため、学習者は自由に発言できるのである。この活動の中に、近年日本語教育の分野で、その指導が求められているいくつかの要素が含まれていると考えられる。

2. 背景と目的

筆者がVTSを実践したいと思った理由を述べる。

まず、VTSによって、言語と内容の総合的学習を目指す内容重視 (Content Based Instruction, 以下、CBI) 教育を実践しながら、批判的思考力を向上させることができる点である。絵を見て、考えたことを言葉にする VTS は、教師から語彙や文型を導入され、それを使って表現するのではなく、自分で「言葉を紡ぐ (橋本他, 2012)」ことから、CBIの授業と言える。近松 (2009) は、「CBIは大学教養課程の教育目的である批判的思考力 (critical thinking) 等の養成にも大きく貢献できる可能性を秘めている」とし、批判的思考力の育成の必要性を述べている。絵を「見る (読む)」, 「考える」, 人に「話す」, 人の意見を「聞く」, また「考える」という流れで行う CBIの授業である VTSによって、批判的思考力を養うことが

できれば、理想的な授業となろう。さらに、教師が訂正しない、意見を言わない、まとめない中立なファシリテーターであり、学習者が自由に絵を読み解き、そこに正解はないという点も、学習者主体のCBIの授業と言えるだろう。

批判的思考力の定義については諸説あるが、楠見（2005）は、「自分の推論過程を意識的に吟味するリフレクティブ（reflective）な思考、つまり批判の目は自分自身の推論過程に向ける。他者に向けることもあるが、そうした反省的な思考としての定義が大切だと思う」と述べている。また、文科省発行『言語活動の充実に関する指導事例集』（2011）でも、「他者の考えを認識しつつ自分の考えについて前提条件やその適用範囲などを振り返るとともに、他者の考えと比較、分類、関連付けなどを行うことで、多様な観点からその妥当性や信頼性を吟味し、考えを深めること、すなわちクリティカル・シンキングが大切である」と記述されている。日本語で批判的思考力というと、「相手の意見を批判する。つまり否定する」といった意味合いで使われることもあるが、そうではなく、非常に総合的な言語能力と言えるだろう。今後、批判的思考力という言葉から抱く誤解を避けるため、「クリティカル・シンキング」という言葉を使用することとする。

次に、VTSによって、ビジュアルリテラシーを向上させることができる点が挙げられる。近年ビジュアルリテラシーの育成を授業に取り入れることの必要性も耳にする。ビジュアルリテラシーについて、奥泉（2006）は、高度情報化社会に必要とされるリテラシー（読み解き・発信力）の重要な要素の一つで、絵や写真、図表、動画といった視覚的テキストを読み解き・発信する力のことであり、ビジュアルリテラシーを言語教育に組み込む必要性を論じている。その中で、視覚的テキストの解釈の多層性と読み手とその状況性が重要であるとしている。つまり、視覚テキストを見た時、読み手の解釈が人によって異なることが前提とならなければならない。また、奥泉（2006）は、「同じテキストを見た時、解釈の違いを出発点として、なぜ各人の解釈に違いが出たのかを、視覚的テキストから根拠を挙げて議論し合えることが、学習の最終ゴールとして意識されるべきである」と述べている。これらはVTSの理論と一致し、VTSによってビジュアルリテラシーを向上できると考えるに至った。

このように、VTSは、総合的な能力であるクリティカル・シンキングやビジュアルリテラシーの向上が期待できる活動である。VTSは普通、絵または写真を見て行う。視覚テキストには、その他に、映像やポスターなど様々あり、学習者にとっては、ストーリー性のある映像やデザイン性のあるポスターの方が見ていて興味深いかもしれない。しかし、映像は消えていくもので熟視ができない。また、メッセージ性のあるポスターや映像は、「読み解く」答えは一つになってしまう。つまり、これらはスキニングやスキミングを目的とする活動なら効果的であるが、VTSには適していない。VTSは一枚の絵を熟視するため、これは「精読」と言えるだろう。そして、「読み解く」答えは複数で、読み手による解釈の多層性・状況性のある絵を選定しなければならない。

VTSは評価をしない活動であって、その効果を確認する方法は確立されていない。しかし、言語教育に応用する場合は、やはりその効果を実感できる方法を探求していきたいという思いで、自分なりの工夫をして実践することとなった。

3. 日本語教育への応用

3.1 パイロット実践（春学期）

実施日：2012年5月25日

鑑賞者：日本語学習者9名（N2レベル）²⁾・日本人ボランティア3名

ファシリテーター：教師

使用した絵：ヨハネス・フェルメール《手紙を書く女と召使い》 1670年

ポール・ゴーギャン《パラウ・パラウ（おしゃべり）》1891年

配布物：① VTS の方法や効果の説明用紙・②振り返りシート・③録音を正しく文字化した用紙

①は、新しい活動をクラスで導入する際、目的や効果を学習者にも理解して臨んでほしいために配布した。②は、実施後に質問に記述式で答えてもらうシートで、「絵を見て初めに自分で考えたこと」「人の意見を聞いて変わったか」「なぜ変わったか」「なぜ変わらないか」「何を学んだか（言葉・文法など）」「意見や要望」という項目がある。③は、各自の発言を録音したものを、教師が正しい語彙や文法で文字化し、また「その他の関連表現」として、発言と関連して習得してほしいと思われた表現を提示したシートで、翌週に配布した。それは、日本語のクラスで実施するからには、教師からのフィードバックによる言語学習効果に期待したいため作成した。結果、学習者はまだ中級という日本語力ながら、絵を読み解き、発言したが、「会話が續かない」「各自がばらばらに意見を述べるだけで、あまり人の意見を聞いていない」「学習者間のコミュニケーションがない」という印象を持った。振り返りシートの「何を学んだか」の項目に、いくつかの進出語彙の記述が見られたが、学習効果と言えるものではなかった。だが、「想像で意見が言えることがおもしろい」、「絵の知識がないからこそ意見が言える」と言った VTS の理論に即した感想もあり、改善すれば、日本語教育に応用できるという可能性を残した。

3.2 パイロット実践から考案した改善策

母語話者に対する VTS と、日本語教育として実施する非母語話者に対する VTS は、多少方法を変えざるを得ないと思われる。まず、大きな問題として、中級レベルで言いたいことが日本語で言えない、あるいは、論理的にその根拠が言えないことを改善するには、事前にメモを取りながら絵を見る方がいいと考えた。また、自分が意見を言ったら終りで、他人の意見を聞いていないという問題を解決するには、発表後に、自分の意見と他者の意見を見つめ直して書く作業が有効であると考えた。そこで、発表の前と後に書く「シート」（資料1・2・3）を活用することにした。つまり、図1に所々「書く」という過程を導入する。それは、シートにある項目を事前に見ることによって、論理的思考力やクリティカル・シンキングの向上のため

に、この活動を行っているという目的意識を強化する狙いもある。

次に、90分のクラスで2回実施するため、2回目は本来のVTSとは違った方法で実施することにした。一つは、小グループごとに絵を見つめ合うピア活動で疑似VTSを行い、その結果をクラスで発表させるという方法である。厳密なルールに沿って進行するVTSは、ファシリテーターの技術に左右され、その技術を持った教師にしかVTS本来のファシリテーターはできないと思われる。しかし、クラス皆の前で発言するという行為は、緊張を強いる側面は否定できず、特に発言が苦手な学習者は躊躇してしまう。そこで、小グループで役割分担して疑似VTSを行い、グループの意見として代表がクラスで発表するという協働作業をさせてみることにした。グループとしての意見をまとめることは、合意形成力も養うことができると思われる。

さらに、絵を4枚に裁断して、部分を一枚ずつ見せ、最後に全体を見せるという方法を考案した。ジグソーリーディングのようなジグソーウォッチングである。部分の細部に目がいくので、一枚一枚をより深く見つめ、次の絵を見たいという好奇心や、前に見た絵と後から見た絵をどう関連づけるかという想像の広がりや、最後の絵を見た時に達成感を感じるような心理状態の変化があるのではないかと想像できる。これらはVTS本来のやり方と乖離するものであろうが、このクラスは会話クラスという位置づけもあるため、ピア活動やゲーム感覚で楽しめるようなバリエーションのある活動も行って、クラスの活性化を図りたいと考えた。

【パイロット実践から考案した改善策】

1. 発表前や発表後に「書く」⇒・自分の考えをまとめるため
 - ・他者の意見をよく聞くため
 - ・VTSの目的意識を強化するため
2. ピア活動⇒・緊張を和らげるため
 - ・合意形成力を育成するため
3. ジグソーウォッチング⇒・ゲーム感覚でクラスを活性化するため

3.3 実践1（秋学期 その1）

実施日：2012年11月9日

鑑賞者：日本語学習者8名（N2レベル）³⁾

ファシリテーター：教師

使用した絵：1回目 トレイシー・モファット《なにかもう少し#1》1989年（絵1）

2回目 ヨハネス・フェルメール《手紙を書く女と召使い》1670年

配布物：①VTSの方法や効果の説明用紙・②個人活動シートI（資料1）・③録音を正しく文字化した用紙

3.3.1 授業手順

①を配布し目的を理解させた後、②を配布し、絵を見せる。メモを取る時間を10分くらい取った後に VTS を行い、各自が意見を言った後、②に自分の意見と他人の意見を見つめ直してまとめる。③は、翌週に配布した。2回目は何も書かずに VTS 本来のやり方（各自黙って数分絵を見て考え、その後発言する）で実施した。

3.3.2 結果と考察

改善策の1を取り入れた1回目について報告する。②の「絵の中で何が起きているか」「絵のどこから、そう思うか」という項目に、メモを書く時間を設けたことで、発言しやすくなり、根拠を述べながら、話が続く印象を持った。メモを取る際、未習語彙を辞書で調べたり、教師に聞いてくる学習者もいることから、中級レベルでは、メモは有効ではないと思われる。また、②によって、後から人の意見について自分の考えをまとめなければならないという意識があるためか、人の意見もよく聞いているようであった。根拠を元に論理的に述べられていることから、ビジュアルリテラシーの向上に繋がると思われる発言を、表1に分類してみた。



絵1 トレイシー・モファット『なにかもう少し#』1989年

アメリア・アメナス（2005）『Mite！ティーチャーズ
キット3』淡交社 より転載

表1 発言の分類－1

	「絵の中で何が起きているか」	「絵のどこから、そう思うか」
視覚的描写 絵の技術描写	・田舎の農場 ・天気は晴れ ・赤いドレスの女は重要な人だ ・子供が死んだ寂しい気持ち	・乾いた畑がある ・空が青い ・大きく描かれている ・男の子が白くぼやけていて幽霊みたい
ストーリー描写	・赤いドレスの女は田舎にいて新しい世界に行きたいと思っている ・赤いドレスの女は成功した人で、妹の墮落した生活を見て理解できないと感じている	・手の中にチョウがいるようだ（羽ばたくことを象徴） ・赤いドレスの女だけきれい／男は酒を飲んで、白い服の妹はたばこを吸っている／誰も子供の面倒を見ない
社会文化的文脈描写	・女性が強くなったという社会変化 ・都市と農村、金持ちと貧乏という社会の問題	・赤と黒という色は激しさを表す ・赤いドレスの女だけお嬢様に見える

表1にあるように、絵を見て根拠を元に見たままを描写する「視覚的描写」や「絵の技術描写」、絵を自分なりに深く読み解く「ストーリー描写」、さらに、その背景にある社会や文化の問題にまで思考が及んでいる「社会文化的文脈描写」に分類することができた。これは、ビジュアルリテラシーに必要な解釈の多層性と状況性を満たしていると言えるだろう。

②の「印象的だった人の発言を批判してみましょう」という項目は、この時点で筆者のクリティカル・シンキングの定義が曖昧だったため、「批判する」という表現を使ってしまった。この項目の記述として、ある学習者は、他の学習者の「二人は姉妹」という意見に対して、「見た目は全然違うから家族に見えない。状況も違うから同じところで生まれたとは思えない。」というように、論理的に人の意見に反論していた。一方、別の学習者は、「黄色と赤という色は社会の変化だ」という意見は良い意見だ。自分もそう思うようになった。」と記述し、相手を「批判する」のではなく、論理的に合意していた。これはクリティカル・シンキングの定義についての筆者の気づきとなった。

③を配布した際、他者の意見の記述までよく読んで、覚えたい表現にマーカーを引く学習者も見られたため、語彙習得に関して、ある程度はフィードバック効果もあると感じた。

また、後で②のメモを見て、メモにあるのに発言していない内容があることに気づいた。これは、ファシリテーターがパラフレーズするためにターンを取るうちに、学習者が発言のタイミングを逃してしまったためだと思われる。そこで、ファシリテーターは、「以上でいいですか」という発言の終了の確認をすることを提案したい。

3.4 実践2（秋学期 その2）

実施日：2012年11月16日

鑑賞者：日本語学習者6名（N2レベル）・日本人ボランティア2名

ファシリテーター：教師

使用した絵：1回目 ルイーザ・ヴィダルト《母性》1879年（絵2）

2回目 学生が用意した絵《天使と悪魔》

配布物：①個人活動シートⅠ・②ピア活動シート（資料2）・③録音を正しく文字化した用紙

3.4.1 授業手順

1回目は、前回の1回目と同じ手順で実施した。2回目は、3人のグループになり、②を配布し、「進行係り」「記録係り」「発表係り」を決め、協働作業で絵を見つめ合って疑似VTS（改善策の2）を行った後、約15分後グループの意見として発表する形で、教師のファシリテーターによるVTSを実施した。2回目の絵に関しては、前回学生から「自分で好きな絵を持って来て皆の意見を聞きたい」という要望があり、それを受け入れた。

3.4.2 結果と考察



絵2 ルイーザ・ヴィダルト『母性』1879年

アメリア・アメナス（2005）『Mite！ティーチャーズ
キット3』淡交社 より転載

実践1と同様に、1回目の発言を表2に分類してみた。ある学習者は、「部屋の中で母が赤ちゃんを抱いています。外に女の子がテーブルに座って、お母さんのように赤ちゃんを抱きたいと思っているので、人形を抱いています」「それは、女の子の抱き方は母と同じだから、そう思います」と論理的にその根拠を述べていた。その際、ファシリテーターが、その前に発言した学習者Aの意見と関連付けたいという思いから、「Aさんと同様に、お母さんになりたいから人形を抱いているのですね」と間違えてパラフレーズしてしまったところ、他の学習者が「そうじゃなくて、お母さんのように赤ちゃんを抱きたいけど、自分には赤ちゃんがいないから、代わりに人形を抱いているという意味です」とフォローし、人の発言をよく聞き、コミュニケーション能力の向上につながる過程を実感する場面があった。

表2 発言の分類－2

	「絵の中で何が起きているか」	「絵のどこから、そう思うか」
視覚的描写 絵の技術描写	・母親が抱いているのは赤ちゃん ・赤ちゃんは死んでいる ・父親が亡くなった	・手前に赤ちゃんのベッドがある ・顔が白い ・黒い服を着ている
ストーリー描写	・外の女の子は赤ちゃんを抱っこしたいが、赤ちゃんは母親がずっと抱いているから、代わりに人形を抱いている ・女の子は、自分も早く母親になりたいと思っている	・女の子の人形の抱き方は母親と同じ ・赤ちゃんを抱いている母親の真似をして同じポーズで人形を抱いている
社会文化的文脈描写	・母親は子育てに無関心	・手前の子供を無視しているように見える

2回目のピア活動は、ファシリテーターを学習者が担うことは難しいため、「絵の中で何が起きている?」「どこから、そう思う?」という質問をしていく「進行係り」とした。3人の小グループに分かれて、緊張感なく、より発言しやすい環境になり、ピア活動を楽しみながら、自分の役割分担の責任を求められ遂行していた。グループの意見として発表するため、必然的に合意力の形成が求められ、それは、「正解のない」VTSとは矛盾するが、その後クラス全体で、「発表係り」と教師によるファシリテーターで本来のVTSを行った。ただ、学生が用意した絵がメッセージ性の高いものだったため、「読み解く」層が広がらず、VTSに適した複数の「読み解き」が可能な絵を選ぶことが重要であることを示す結果となった。VTSは静物画でも彫刻でも実施可能だと言われているが、言語教育として応用するなら、やはり人物がいて、そこに様々なストーリーを想像できるような絵が適しているだろう。

今回は、日本人ボランティア2名に参加してもらったが、「女の子が赤ちゃんをあやすのに一生懸命になっています」「それは、お母さんは子供の相手をしている暇がないから」のように、自分の意見の根拠ではなく、絵のストーリーの理由を述べる発言があり、日本語学習者の方が、むしろ論理的に読み解いていた。VTSは、母語話者と非母語話者に関係なく、また中級レベルでも実施できると確信するようになった。

3.5 実践3（秋学期 その3）

実施日：2012年12月7日

鑑賞者：日本語学習者10名（N2レベル）

ファシリテーター：教師

使用した絵：1回目 ヘレン・レヴィット《メキシコ1941》1941年（絵3）

2回目 エドガー・ドガ《ベレリ家の肖像》1860年

配布物：①個人活動シートⅡ（資料3）・②録音を正しく文字化した用紙

3.5.1 授業手順

1回目は事前にメモは取らず、VTS本来のやり方で行い、発表後に自分の意見を見つめ直して①にまとめた。2回目は、絵を4つに裁断し、部分を一枚ずつ見せて、最後に全体を見せるという手順（改善策の3）で実施した。

3.5.2 結果と考察

既に2回実施し、VTSに慣れてきたためか、メモがなくても活発に意見が出た。発表後にまとめる①には、ほぼ全員が、発言より記述が多くなっており、人の意見を聞いて見つめ直すというプロセスが重要であることを示した。ただ、①に、筆者が「絵の時代、場所、季節、天気、人物の年齢、職業、関係、表情、服装などを考えながら、まとめてみましょう」というヒントを書いたため、それに縛られてまとめてしまったと思われる。読み解く手助けがない方が、思考が広まったかもしれない。

実践1実施後に、クリティカル・シンキングの定義を明確にしたため、「印象的だった人の発言を批判してみましょう」という項目の他に、「『なるほど!』と思った人の意見がありましたか」という項目を追加し、その理由も書かせてみた。クリティカル・シンキングの向上が期待される学習者の例を表3に示す。



絵3 ヘレン・レヴィット『メキシコ 1941』1941年

アメリア・アメナス（2005）『Mite！ティーチャーズ
キット3』淡交社 より転載

表3 クリティカル・シンキングの向上が期待される学習者の記述

2. 人の意見を聞いて考えが変わりましたか。はい？ いいえ？

3. 「なるほど!」と思った人の発言がありましたか。

(アジュリー)さんの発言	理由
・3.う3.いて、何がけんかした状態。	女の態度は2つに見えると思う。顔を見て、たぶん怒っているという感じもあるから。

4. 印象的だった人の発言を批判してみましょう。

(フリヤ、メイ、ハズル)さんの発言	批判する理由
女は40歳	ラティンの顔は実際のとしより年上に見えるから たぶん 27歳から30代までだと思う。

この学習者は、発言時は「二人は愛し合っているけど、周りの人は反対しているから、ちょっとだけ挨拶している。それは、女性の顔は何か心配しているし、そわそわしているし、場所は他人から見えなような場所だから、そう思います」という意見であった。それが、他の学習者の「夫婦で何か喧嘩した状態」という発言を聞いて、「女の顔は二つに見える」と論理的に合意していた。

2回目の絵を裁断するジグソーウォッチングは、より細かい部分の「精読」ができ、好奇心や想像力の広がりを感じた。そして、最後に一枚の完成した絵を見たときに「なーんだ!」と納得するゲーム感覚が楽しめて、クラスが盛り上がった。正しいVTSとは言えないが、最後の絵の解釈も学習者によって、様々であったので、ビジュアルリテラシーの向上に必要な解釈の多層性と状況性という条件は満たしていたと言える。

3.6 学習者へのアンケート

3 回実施した後に学習者にアンケートを行った。

表4 学習者へのアンケート（回答者10名）

	とてもいい	いい	普通	あまりよくない	全然よくない
おもしろかったか	8	2	0	0	0
また参加したいか	4	6	0	0	0
日本語力の向上	2	2	6	0	0
観察力の向上	6	4	0	0	0
論理的思考力の向上	4	5	1	0	0
批判的思考の向上	5	3	2	0	0
コミュニケーション能力の向上	1	6	3	0	0

概ね好評といえるが、残念ながら日本語力の向上が低く、やはり今後の課題となろう。アンケートの記述欄には、良かった点として、「皆はいろいろな意見があるから、それを聞くのはおもしろい」「自由に話せて文法は関係ないからいい」「美術が好きなので、おもしろい授業だと思う」「おもしろかった！本当にリラックスした」「たくさん話さなければならないから、日本語の能力が上がった」等の意見があった。悪かった点として、「昔の絵だから説明が難しい」「自分は想像力があまりないから、ちょっと難しい」「感じたことを説明できない」「皆は最初は遠慮して意見をあまり言えない」、その他に「作者が本当は何を描きたかったか知りたい」「先生の意見を知りたい」等の意見があった。

4. まとめと今後の課題

VTS を日本語教育に応用するために、パイロット実践をもとに改善策を考え、3 回に渡り実施してみた。母語話者に行う VTS と非母語話者に行う VTS は、論理的思考力やコミュニケーション能力やクリティカル・シンキング等の向上という目的は同じだろうが、非母語話者に対する言語教育では、本来の VTS そのままでは実施が難しい側面がある。そのため、筆者が提案した方法は、(i) 事前や事後にシートを使って「書く」作業を組み込むこと、(ii) 録音を文字化したものを配布すること、(iii) ピア活動、(iv) ジグソーウォッチングである。これらによって、ある程度その効果を実感することができた。実施手順として提案したいのは、ファシリテーターによる鑑賞者の発言のさえぎりを防ぐために、(v) 「以上でいいですか」という終了確認の質問をすることである。

今後の課題としては、ファシリテーターの技術向上、さらに言語能力を向上させる方法、初めの発言者を促す方法などが挙げられる。また、アンケートにあった作品の真の情報については、興味のある学生は自分で調べてクラスメートに教えることを課題とすれば、動機づけとなり、自律学習につながる可能性がある。まとめをしないという VTS の理論では、知的好奇心

を満足させられないタイプの学習者には有効であると思われる。また、美術学科の学生の作品を鑑賞したり、美術館や市民ギャラリー等で VTS を実施し、後で作者に「正解」を述べてもらうことができれば、教室外の協働文化活動に発展させることもできるのではないか。

VTS を日本語クラスで実施することは、クリティカル・シンキングやビジュアルリテラシーの向上に、有意義な活動である。ただ、教師が評価をしない VTS を言語教育に応用させ、その効果をどのように確認するかは大きな課題となろう。今後もこの課題の解決策を模索しながら、VTS を日本語教育に応用する方法を探求していきたい。

注

- 1) 中級会話クラスでは、その他に、ロールプレイとドキュメンタリードラマを実施した。
- 2) 春学期の学習者の国籍は、タイ、中国、イタリア、カナダ、イラン。
- 3) 秋学期の学習者の国籍は、タイ、ロシア、ブルガリア、アメリカ。秋学期に実施した3回は、すべて同じ学習者で、参加者数の変動は欠席によるものである。

参考文献

- アメリカ・アメナス (2005) 『Mite! ティーチャーズキット3』淡交社
- 奥泉香 (2006) 『『見ること』の学習を、言語教育に組み込む可能性の検討』リテラシーズ研究会 (編) 『リテラシーズ2—ことば・文化・社会の日本語教育へ』くろしお出版, pp.37-50.
- 近松暢子 (2009) 「米国におけるコンテンツ・コミュニティベース授業の試み—米国シカゴ日系人史—」『世界の日本語教育』19, pp.141-154.
- 楠見孝 (2005) 「批判的思考の能力と態度の測定」第6回研究会 pp.103-120.
- 鹿内信義・尾関俊宏・安達聖 (2010) 「ビジュアルリテラシーの授業開発 (VI) —見学事前指導への活用—」『北海道教育大学紀要』60 (2), pp.125-140.
- 橋本智・山本朝彦・山本真理子・古賀美千留 (2012) 「Visual Thinking Strategies (VTS) の日本語教育への応用を考える」『日本語教育方法研究会誌』Vol.19 No. 1
- 橋本智・山本朝彦・山本真理子・小林尚美・Steve McGuire (2013) 『ビジュアル・シンキング・ストラテジー (VTS) を援用した新しい日本語教育の試み』平成23—24年度科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 (課題番号2365118) 研究報告書
- 福のり子 (2013) 『2012年度 アート・コミュニケーションプロジェクト報告書』京都造形大学アート・コミュニケーション研究センター
- 吉田貴富 (2010) 「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【3】」—『MITE! ティーチャーズキット3』を用いた実践から—『山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』第30号, pp.79-90.
- 日本語教育 VTS 研究会 第1回研究会—科研費研究報告会 (2013) 口頭発表
- 文部科学省 HP www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm (2013)

付記

本稿は、小林尚美「VTS を応用した日本語会話クラス活動」『ビジュアル・シンキング・ストラテジー (VTS) を援用した新しい日本語教育の試み』平成23—24年度科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 (課題番号2365118) 研究報告書 pp.31-41. に加筆訂正をしたものである。

年 月 日

名前 ()

絵の中で何が起こっているか	絵のどこから、そう思うか

3. 発言が終わったら、下の質問に答えましょう。

- ① 人の意見を聞いて考えが変わりましたか。はい？ いいえ？
- ② ①で「はい」と答えた人は、なぜ考えが変わりましたか。
- ③ ①で「いいえ」と答えた人は、なぜ自分の考えが変わりませんでしたか。
- ④ いんしやうぎ 印象的だった人の はつげん 発言を ひはん 批判してみましょう。

() さんの発言	批判する理由

4. その他（質問、^{しつもん}確認したいこと、^{かくにん}意見、^{いけん}感想、^{かんそう}要望など、^{ようぼう}）

<資料2> ピア活動シート

VTS ピア活動シート								
		年 月 日						
しんこうがが 進行係り：名前（ ） きろくがが 記録係り：名前（ ） はっぴょうがが 発表係り：名前（ ）								
1. かくじ 各自のいろいろな意見を書きましょう。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="padding: 5px;">絵の中で何が起こっているか</th> <th style="padding: 5px;">絵のどこから、そう思うか</th> <th style="padding: 5px;">それを批判する意見 ひはん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 200px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	絵の中で何が起こっているか	絵のどこから、そう思うか	それを批判する意見 ひはん					
絵の中で何が起こっているか	絵のどこから、そう思うか	それを批判する意見 ひはん						
2. グループの意見をまとめて、発表しましょう。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="padding: 5px;">絵の中で何が起こっているか</th> <th style="padding: 5px;">絵のどこから、そう思うか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 150px;"></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	絵の中で何が起こっているか	絵のどこから、そう思うか						
絵の中で何が起こっているか	絵のどこから、そう思うか							
3. 個人活動とグループ活動は、どちらが発言しやすいですか。どちらが好きですか。								

年 月 日

名前 ()

- え じだい ばしょ きせつ てんき じんぶつ ねんれい せいべつ しょくぎょう かんけい ひょうじょう ふくそう
1. 絵の時代、場所、季節、天気、人物の年齢・性別・職業・関係・表情・服装…などを
考えながら、自分の考えをまとめてみましょう。

絵の中で何が起きているか	絵のどこから、そう思うか

3. 「なるほど！」と思った人の^{はつげん}発言がありましたか。

()さんの発言	理由

4. 印象的だった人の発言を批判してみましょう。

() さんの発言	批判する理由

5. その他（質問、確認したいこと、意見、感想、要望など）